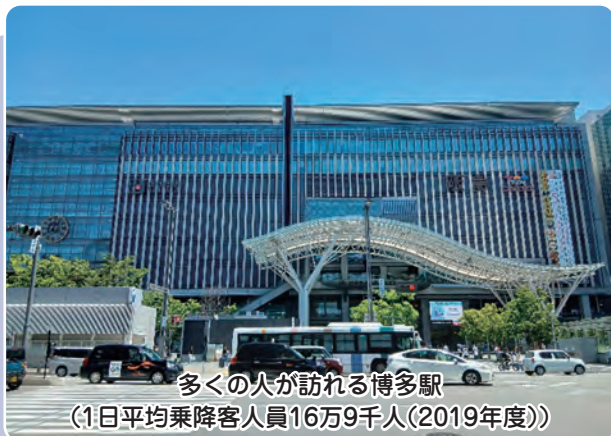




技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部 夏季号<第148号> (令和8年7月15日発行)



多くの人が訪れる博多駅
(1日平均乗降客人員16万9千人(2019年度))



博多駅前広場とKITTEビル、西日本シティビル
(西日本シティビルは、2026年7月開業予定)



地下鉄七隈線博多駅
(2023年3月多くの苦難を乗り越え開通)



規制緩和第1号の博多イーストテラス
(旧博多スターレーン跡地に建設、2022年8月竣工)

進化を続ける博多駅周辺～博多コネクティッド

福岡市の博多駅周辺では、2011年の九州新幹線開業とあわせて駅を中心に賑わいを見せています。そして、2019年から博多駅を中心に都市開発計画「博多コネクティッド」が実施されています。この計画は、博多駅から半径500m以内での地下鉄七隈線の延伸や博多駅前通りの再整備など交通基盤の拡充を行います。そして、容積率などの規制緩和により、耐震性の高い先進的なビルへの建替えや歩行者ネットワークを拡大するとともに、歴史ある博多旧市街との回遊性を高めることで、都市機能の向上を図る再開発計画です。多くの人が訪れる九州の陸の玄関口として更なる発展が期待されています。福岡を訪れた時には、博多駅周辺を散策し、新しい息吹と博多の歴史を肌で感じてはいかがでしょうか。

広報委員 はらだまさのり 原田正則 (建設、総合技術監理・福岡)

目次

巻頭言	1
私の提言	2
声の広場	3
会員の多様な声	5
熟年技術士の声	6
ミニ特集	7
修習技術者の声	10

次

土木遺産シリーズ(44)	11
中央・統括本部情勢	12
委員会・部会報告	13
支部だより	19
CPD報告	21
協賛団体会員	23

AI時代の『学問のすすめ』 ー自然科学と社会科学のハイブリッドー

の む ら と し の り
野村 利則

(情報、総合技術監理、博士(学術)、MBA・北九州)



「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言えり。…(中略)… されども今、広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、その有様雲と泥(どろ)との相違あるに似たるはなんぞや。その次第はなはだ明らかなり。『実語教(じつごきょう)』に、『人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なり』とあり。されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとによりてできるものなり。また世の中にむずかしき仕事もあり、やすき仕事もあり。そのむずかしき仕事をする者を身分重き人と名づけ、やすき仕事をする者を身分軽き人という。…(中略)… 学問とは、ただむずかしき字を知り、解(げ)し難き古文を読み、和歌を楽しみ、詩を作るなど、世上に実のなき文学を言うにあらず。…(中略)… されば今、かかる実なき学問はまず次にし、もっぱら勤むべきは人間普通日用に近き実学¹なり…(後略)…」。これは、我が故郷「大分県中津市」の偉人「福翁」の『学問のすすめ²』初編冒頭の一節である。この「むずかしき仕事をする者」とは、まさに現代を生きる技術士ではなからうか。150年の時を超えても色あせず、技術士の継続研鑽(CPD: Continuing Professional Development)の重要性を示唆しているといえる。

現代社会に目を転じると、「経済産業省は3月に2040年には大卒・院卒の文系人材が約80万人余るとの推計を出した。人工知能(AI)やロボットの普及で理系人材は不足が見込まれるが、文系は不要になるのだろうか」(日経電子版2025年4月26日5:00)という記事が掲載された。確かに生成AIなどAI技術の進化が文書作成などの事務作業を代替し、事務系労働者の仕事を奪うことは容易に想起することができる。また、将来的にはAIエージェントが人間の代わりに幅広いタスクを進め、人事、経理、営業といったさまざまな分野で業務の効率化が見込まれている。しかし、それは文系だけにとどまるであろうか。

例えば、AIエージェントの登場はSaaS³の市場を奪おうとしている。また、ChatGPTやClaude Mythosはプログラマの仕事をも奪おうとしている。これらを概観すると、そこには規則性があり原理原則に従い実行される業務のように見える。我々技術者の仕事はどうだろうか。原理・原則(定理や法則)に従い設計できれば、期待どおりのモノを作り出すことができる。しかし、それだけではエンジニアリング作業もAIによって代替される日が来るであろう。

この問題を考えるにあたり、サイモン⁴の「構造化問題⁵」(社会科学)が示唆を与えてくれる。「構造化可能な問題」はAIに任せ、経営戦略や事業戦略のように高度な意思決定が必要な「構造化困難な問題」は人間が意思決定する。そして、「半構造化問題」はAIにいくつかの候補を示させるか判断材料としてのデータを示させ、その結果に基づいて人間が意思決定する。また、AIの進化は「構造化可能な問題」と「半構造化問題」の領域を拡大させるであろう。その場合、AIに任せられるのか、AIが示すデータは信頼できるのか、人間もまた高度化しなければならない。

そのためには、AIに代替されることなくAIを使い倒す側となるべく「学び増し」により「マネジメント」や「行動経済学」のような社会科学系の知識を獲得する必要があると考える。それは「自然科学と社会科学のハイブリッド」人材になることを指す。新たな知識はAIに対する「問いかけ」の多面性と精度を高め、結果に対する評価軸を多様化する。さらに、技術者の専門技術領域の業務を遂行するうえでも「仕事の技術」として役立つものとなる。

さて、技術士は「自然科学と社会科学のハイブリッド」技術者となり、AIを使い倒す側の立場となれるか。

所属：野村技術士事務所

(E-mail: toshinori_nomura.5611@nifty.com)

¹ 1870年代、福翁は日本で初めて西洋の「Science(サイエンス/科学)」を「実学(じつがく)」と翻訳したとされる。それは、机上の空論を排し実生活や社会発展に役立つ学問、例えば算盤、計量、地理学、物理学、歴史学、経済学、倫理学などを指す

² 福沢諭吉(1942)『学問のすすめ』岩波書店。初編は中津市学校開校にあたり1872年にそこで学ぶ若者のために書き下ろされた

³ インターネット経由で利用する人事、経理、営業などの業務用ソフトウェア

⁴ ハーバートA・サイモン(Herbert Alexander Simon, 1916-2001) コンピュータ科学、心理学の権威。1978年度ノーベル経済学賞

⁵ プログラム化できる「構造化可能な問題」、人しかできない「構造化困難な問題」。結果を見て人が決定する「半構造化問題」

企業の成長と発展を担う技術士集団

大分県支部幹事 ^{えとう}衛藤 ^{かおる}郁
(建設、上下水道、総合技術監理・大分)



技術士は、科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする業務を行い科学技術の向上と国民経済の発展に資する。と技術士法に規定されています。

私は、建設系コンサルタント会社に勤務して40年、日本技術士会会員として25年が過ぎました。技術士第二次試験の受験時から今日まで常に考え、自問し続けている思いが、「科学技術の向上と社会・経済発展への貢献」、「公共安全、環境の保全」と、激動・激変する社会環境下における「企業の成長・発展」の両立です。

1. 技術士の問題解決能力

技術士は、専門的学識に基づく豊富な実績と経験にくわえて、以下に列挙する資質能力（コンピテンシー）を有しています。

◆問題解決

直面する複合的な問題に対して、潜在する問題発生要因や制約要因を抽出・分析し、相反する要求を合理的に解決し改善する。

◆マネジメント

品質、コスト、納期及び生産性とリスク対応に関して、人員、設備、金銭、情報等の資源を配分する。

◆評価

結果、成果やその波及効果を評価し改善に資する。

◆コミュニケーション

クライアントやユーザー等、多様な関係者との間で社会的文化的多様性を理解し、意思疎通を図り、協調する。

◆リーダーシップ

明確なデザインと現場感覚を持ち、多様な関係者の利害等を調整し、とりまとめる。

◆倫理

公衆の安全、健康及び福利を最優先に、社会、経済、環境に対する影響を予見し、次世代にわたる持続可能な成果達成を目指し倫理的に行動する。また、関係法令等を遵守して行動し、自ら責任を負う。

◆継続研鑽

コンピテンシーを維持向上させ、新技術や変化し続ける仕事の性質に適応する能力を高める。

2. 企業運営と技術士

企業は、大小を問わず様々な課題に直面します。事業を成功させるためには、顧客のニーズに応え、「欲しい」と思える商品を効率よく効果的に提供していくことが必要であり、技術者が努力と研鑽を積み重ね、能力を発揮してこそ達成できるものです。また、非常に残念なことですが、近年では客観的根拠に基づかない成果の捏造やデータ改ざん、情報漏洩等、以前のわが国では起こり得なかった事象も発生しています。

技術士は、リスク管理や組織管理、最適化マネジメントに基づく全体課題解決等を主眼とした総合技術監理部門をはじめ、各専門分野に関する課題解決的思考、経験と実績を有する技術者集団です。くわえて、高い倫理観と公正・誠実を旨として、公益の確保に貢献できる自律した技術者でもあります。

以上のことから、技術士は、企業の経営支援や経営改善、新規事業への挑戦等、社会的な使命のひとつでもある企業の持続的成長や発展に寄与する技術的サポーターとして貢献できるものと考えます。

3. 企業の持続的な成長と発展のために

私たち建設関連業界においても、頻発化・激甚化する自然災害への対応やインフラメンテナンス、また、昨今の技術革新の進展・融合は目まぐるしく、生産性向上、品質確保、DX・GX、高度化、多様化、人材確保・育成等々、課題山積のなかで、企業を成長・発展させる手法の一つとして技術士の積極的な登用や参画について提案させていただきました。

特に、比較的小規模な企業においては、経営者が経理、人事、生産・開発にまで携わり、様々な悩みや課題を抱えているケースも少なくありません。

技術士には、日本技術士会というネットワークがあります。統括本部、各専門部会をはじめ、九州本部や大分県支部等を通じて、技術的な課題解決は元より、経営・運営、サポート、助言等に関わることで、企業の持続的な成長と発展に繋げていきたい。

所属：九州建設コンサルタント株式会社
(E-mail: kaoru.eto@qcon.co.jp)

左足ブレーキの 否定派と肯定派

やまね せいいち
山根 誠一
(建設・佐賀)



10年ほど前から高齢者が運転する自動車事故のニュースが増えた。事故の原因はアクセルとブレーキの踏み間違いとされることが多く、高齢者は踏み間違いが多いと認識されたようだ。一方で、「ことさら高齢者の事故を取り上げているのではないか」との意見も聞かれたが、(公財)交通事故総合分析センターが2018年2月に発行した「交通事故分析レポートNo.124」では、踏み間違いの人的要因として「慌て、パニック」と「高齢」が大きいと分析している。

当時、私は50代半ばであり、定義としては高齢者ではなかったものの、近い将来に対して少なからず不安を感じたものだった。

上記の分析レポートでは、高齢者になると股関節の動きが小さくなることが要因として示唆されていた。ならば、柔軟体操でもするかと思ったりしたが、効果は不明で長続きするとも思えない。色々考えていると、あることに気づいた。

「右足でブレーキを踏んで間違えるのなら、左足で踏めばいい。」

これは唐突に思いついたものではない。その時より30年ほど前のある出来事を思い出したのだ。

ある時、友人が左足でブレーキを踏んでいた。

「お、左足でブレーキを踏むんだ？」

「ああ、オートマの時はね。」

「マニュアル車では右足か、器用だな、練習したのか？」

「いや、いつの間にかできるようになった。」

そんなものかなと思い、試してみたが、とんでもないことだった。クラッチと同じように左足でぐっとブレーキを踏むと、強烈な急制動となった。まるで衝突したかのような衝撃だった。シートベルトをしていなかったらハンドルに顔を突っ込んでいたかもしれない。時速は10km/hにもならない低速だったのに。これは無理だなと思っただけだった。

そんな過去を思い出しながらも、左足ブレーキに挑戦してみようと思い、周辺の状況を確認しながら、

慎重に慎重に、徐々に徐々に左足ブレーキを試みた。「やっぱり無理かな？」と思った時もあったが、左足によるブレーキ操作を習得した（と思っている）。

この稿を執筆するにあたり、左足ブレーキの割合はどの程度なのだろうかと気になりインターネットで調べてみたが、その割合に関する情報にはたどり着かなかった。しかし、左足ブレーキに関する記事やブログが大量にあることに驚いた。ただし、公的機関による情報は見られず、否定派と肯定派が持論を展開していた。中には、否定も肯定もしない意見もあったが、いずれかを主張するものが大半のようである。

それぞれの主張を一言で言うと、否定派は「安全性が低下する」、肯定派は「危険性が低下する」になると思う。ただし、両者が示す左足ブレーキのメリットとデメリットについて大きな差はなく、メリットは踏み間違いリスクの大幅な低減、デメリットはその技能習得の困難さが主なものとされている。どちらを強調するかの方針の違いであろう。

いずれも感覚論が中心でデータに基づいた分析は見当たらなかった。双方とも定性的な理由を並べただけで、事故等との相関関係の有無は示されていない。実走による検証実験がないか探してみたが、その様なものも見当たらなかった。尤も、左足ブレーキの上級者が行った実験はあまり役に立たないだろう。最終的には個人の技能と感覚が支配的になる事象だと思う。

私自身は、左足ブレーキに切り替えており、否定派ではないが、その習得過程でのリスクを経験しており、積極的に推奨しようとは思っていない。周辺の状況を見れば、「ちょっとやってみよう」くらいの気持ちでは危険極まりない。習得するまでの期間や、習得にいたるまで続けられるかについても個人差があるだろう。

もし、強硬な肯定派のブログを読んだ人が、左足ブレーキに固執した結果、不慣れな期間中に事故を起こすかもしれないと想像すると恐ろしい。

このテーマは、たまたま高齢者の踏み間違い事故のニュースを見て、あまり深く考えずに、体験談的に書きはじめたことがきっかけである。

結果的に、科学的根拠があいまいなまま断言する意見の多さを目の当たりにして、インターネット情報を妄信する怖さを再認識することとなった。

所属：株式会社コスモエンジニアリング

Ⅱ

顕微鏡の中のダイバーシティ ～微生物に教わった技術士 としての誠実さと歩み～

まる た こうせい
丸田 耕正
(衛生工学・宮崎)



1. 未知なる技術との邂逅

私の技術士への歩みは平坦ではなかった。人生の転機と学びが時を越えて結びついた瞬間に、その原点がある。約二十年前、九年間勤めた大手化学メーカーを退職した私は、「路頭に迷う」状況にあった。再出発の場として縁を得たのが、現在の職場である都城北諸地区清掃公社である。そこで初めて、私は「水処理（汚水処理）」という技術の世界に足を踏み入れた。当時の私は、水処理とは化学薬品を幾重にも投入し、人工的に浄化するものだと思い込んでいた。しかし、現場で目の当たりにした現実が想像を覆すものであった。水を清める主役は薬品ではなく、目に見えない無数の「微生物」たちだったのである。

「微生物の力で水を洗う」事実に触れ、まさに目から鱗が落ちた。同時に心に灯がともった。私は大学院まで農学部で応用昆虫学、即ち「生物」を専攻していた。かつて情熱を注いだ生物学の知見が、衛生工学の最前線で環境を守る鍵として息づいている。この発見が、私を技術の深淵へと強く引き込んだ。

学んだ知識が社会基盤を支える実学として結実している。その確信を得た瞬間、私は単なる担当者ではなく、技術を極め、社会に責任を持つ「専門家」でありたいと願うようになった。これが技術士を目指した最初の動機である。

2. 現場の多様性と多角的視点

以来、私の日常は「目に見えない生態系」との対話となった。水質管理の要は活性汚泥のコントロールにある。顕微鏡で生物相を観察する日々の中で痛感したのは、その繊細さと奥深さである。活性汚泥の中には一つの完成された生態系が存在する。クマムシなどの後生生物が活発に動き回る姿には愛着がわくものだ。しかし、この小さな命たちのバランス、即ち「ダイバーシティ（多様性）」が崩れれば、良好な処理水は得られない。特定の種が突出しても欠けてもいけない。この絶妙な調和を保ち、排水基準という「社会との約束」を遵守し続けることこそ、技術士の腕の見せ所であり苦心する点である。現場で

の研鑽と並行し、私は技術者の視点を広げるべく資格取得にも励んだ。当公社は公共下水処理施設の受託管理のほか廃棄物処理も手がけているが、ここで避けて通れない課題が「労働安全衛生」であった。廃棄物処理業の労働災害発生率は、他産業と比較しても突出して高い。この現実と直面した際、私は技術士として「水を清める」だけでなく、共に働く「職員を守る」重要性を強く認識した。技術的知見を「環境保全」という外向きのベクトルだけでなく、「労働安全衛生」という内向きのベクトルにも活用する。多角的な視点を持って初めて、現場の真の課題が見えてくる。技術士資格による免除も背中を押し、労働衛生コンサルタントを取得した。技術士の専門知は、多分野の知見と融合してこそ強固な社会的信頼を築けるのだと確信している。

3. 倫理を次世代へ繋ぐ「黄金律」

本業に携わる一方で、令和四年度からは縁あって都城工業高等専門学校で「技術者倫理」の非常勤講師を務めている。多感な学生に対し、複雑な倫理規定を説くのは容易ではないが、私が最も強調しているのは極めてシンプルな一言である。「己の欲せざるころは、人に施すことなかれ」論語の一節こそ技術者が判断に迷った際の「黄金律」である。技術が高度化する現代、法規制の網を潜り抜ける「賢さ」は持てるかもしれない。しかし、一人の人間として、自分や大切な人がされて嫌なことは、決して社会に対しても行ってはならない。この誠実さこそが、技術士法第四十五条の二に掲げられた「公益確保の責務」の原点である。学生たちが将来、組織の圧力に晒されたとき、ふとこの言葉を思い出し、技術者としての誇りを取り戻してくれることを願ってやまない。

4. 結びに代えて：誠実という名の使命

微生物に魅せられて始まった私の技術士人生は、今や現場管理、労働安全衛生、そして次世代教育へと領域を広げている。宮崎で培った知見を個人の専門性に閉じ込めることなく、地域の持続可能な発展のために還元していくことが、私のこれからの使命である。複雑化する社会課題に対し、常に「誠実さ」というモラルを胸に、多様な視点で解決の道を模索する。豊かな環境を次世代へ繋ぐため、これからも技術士の矜持を持って、研鑽に励んでいく所存である。

所属：株式会社都城北諸地区清掃公社
(E-mail: measurer17@gmail.com)

会員の多様な声

子供たちの目線に 立った技術士活動

たぐち おさむ
田口 修

(建設、応用理学、総合技術監理・大分)



1. 土木地質業界を目指す人材の減少

ワークライフバランスの浸透で企業に社員不足の問題が起き、何らかの形で70歳近くまで雇用延長する企業もあると聞きます。

私が勤務する地質調査業界も人材獲得に苦慮しており、新卒入社の学生も「転職を含めて考えよう」という「お試し就職」が増えてきた感じです。

2. 次々世代の人材育成

私が大学入学した1978年、高校から四年生大学への進学率は25%、対して2025年は60%です。

18歳人口に差はあれ、学生数は2倍ほど増えています。就職希望者が減る原因は何でしょう？・・・

当時、担当教授のネットワークで就職先は半ば強制的に決められていましたが、就活ナビが一般的な現在、学生は自らの意思で自由に就職先を選ぶことができ、大学で勉強した分野や知識と無関係の職種も就活対象になったことが一因でしょう。

一方、地質調査業界は土質・地質系の学生を募集対象にしているため選択範囲が限定され、就職者の減少を自ら作り出している問題があります。

最上流の大学入試ではセンター試験の得点で大学を決めるケースも多く、第一希望でない大学や学部、学科に進んだ学生もいます。「希望しなかった学部」から「希望する職種」への就活は難しく、就職した後に転職先を探る傾向も増えているようです。

こうした問題はほかの業界、公務員職ですら新卒学生へのアピールでは遅く、その前段階、年齢での獲得に動き始めているようです。

テーマの「子供たちの目線に立った技術士活動」とは、次々世代技術者の発掘が目標です。

3. 子供たちの興味の掘り起こし

四半世紀ほど前は安定した就職先として羨望の的だった公務員職でさえ新卒学生はスルーしてしまうようです。理由は公務サービス中に起きるストレスが大きな原因だとも聞きます。そうした状況も含め、福岡県は小中学生に仕事の面白さを知ってもらうための企画「けんせつジュニア・ラボ」なるイベントを令和6年度からスタートしました。



ジュニア・ラボのポスター(左)と、福地協キャラクター(右)

私は、(一社)福岡県地質調査業協会(福地協)の理事兼技術副委員長として、事前に右の協会キャラクターを創作し、展示会場に配置しました。

福地協は地質調査をメインに地震防災の「液状化模型実験」、大型モニターで地盤3D画像を動かし、



ポーリングコアを実際にハンマーで叩いて音や硬さを耳と手で感じてもらう体験型展示にしました。



私が担当した液状化実験は沢山の子供たちが訪れ、装置の振動レバーを動かして地震の揺れを起こしてもらいました。

液状化実験の様子とミニチュア模型 模型の地表には水が湧きビルが倒れ、地下駐車場に見立てたプラ箱が浮上する様子を子供たちは興味深く観察していました。

4. イベントの成果と感想

展示や体験は11箇所に分かれ私たちのブースには2番目に多い380名の家族が訪れてくれました。

主催者からは「DX」をテーマにして欲しいという依頼もありましたが、地盤や地質は自然科学分野であり、子供たちにはデジタル以前に自然の不思議さを体感させて理系に導き、技術者を目指して貰えば、私たちの職務を選ぶ子供たちが増える・・・10年先の未来へ期待を込めたイベント参加の目的は少し達成できたのかな?・・・と感じた次第です。

所属：日本地研株式会社
(E-mail: tag@chiken.co.jp)

高齢技術士の役割

よこやま ともみつ
横山 知充
(機械・長崎)



1. はじめに

「少子高齢化社会」の到来により、一般企業では働く技術者の確保が難しくなっていると言われている。こうした中、企業でも定年は、法律により、65歳まで雇用義務化され、更に70歳までの就業機会確保が努力義務となっている。WHOの定義では、65歳以上を「高齢者」と定義しており、一般企業における「高齢技術者」の割合は増加している。

また、一般企業における技術者の雇用形態は「メンバーシップ型（終身雇用や年功序列を前提）」から「ジョブ型（職務に対して必要なスキルや仕事内容を明確にして、ポジションや役割に応じて評価）」に変わってきており、こうした雇用形態の変化に対応するためには、同一会社内で働き続ける技術者も「リスクリング」等で自分の技術力を拡大・向上させ、存在価値を高めることが必要となっている。

2. 私の経歴

私は、既に「熟練技術士」を乗り越し、「高齢化」年齢に達しています。大学卒業と同時に入社し、設計技術者等として勤務した製造業の会社を60歳で定年に達したが、再雇用により68歳まで勤務、1年間の休息期間を置いて、70歳まで関連企業で勤務した。

61歳の時、「技術士（機械部門/材料力学）」の試験に挑戦し、資格を得たが、公共インフラ工事関連の会社とは異なるため、「技術士」の資格を業務で役に立てたことは無く、飽くまで自らの「知的好奇心」を満たすものであった。

3. 高齢技術者の「つとめ」

「技術士倫理綱領」の（継続研鑽と人材育成）には、『技術士は、常に新しい情報に接し、専門分野に係る知識、及び資質能力の向上や、専門分野以外の領域に対する理解を深め、専門分野の拡張、視野の

拡大を図る』と記載されている。

一方、DX（デジタルトランスフォーメーション）による企業文化や組織プロセスが見直されている現在、特にAI（人工知能）の急速な発達により「AI活用による業務効率化」が図られる中、自らが身に付け、蓄積してきた技術は、AIの活用で代替わりされることも多くなっているようだ。

「技術士」は研究者とは異なり、最新技術を開発する集団だけではなく、最新技術を製品に反映させ、競争力のある製品を開発・設計・製造する業務をする技術者の集団ではないだろうか？こうした業務の主体は、若手技術者に任せても、高齢技術者は、そうした技術開発ができる組織作りや環境整備が、役割ではないだろうか。特に、「技術者倫理」に関する分野においてのアドバイスや組織作り（トップダウン・ボトムアップが機能する組織）は高齢技術士の「つとめ」ではないだろうか。

4. 今後の「つとめ」

社会との関わりに関しては、「技術士倫理綱領」の（継続研鑽と人材育成）に『技術士は、社会に貢献する技術者の育成に努める』と記載されており、個人的には、（公）日本技術士会長崎県支部に幹事として参加するとともに、昨年は、長崎県支部が県内の工業高等専門学校の実務で実施した「出前授業」の講師の一人として参加した。このように、社会との関わりを継続するには、「知的好奇心」を持ち続け、こうした新しい技術を理解し続けるために、自らの技術分野に限らず、幅広い技術分野でCPDを受講し続けていきたい。

所属：横山技術士事務所

（E-mail：ureri-yokoyama@tra.bbiq.jp）

お知らせ

九州本部では2026年度の年次大会を下記の内容で開催いたします。オンラインでの参加も可能です。

詳細は九州本部HPをご覧ください。

日時）2026年7月18日（土）13時

場所）福岡商工会議所 407会議室

内容）1. 報告事項、2. 意見交換、3. 本部長表彰

4. 講演 馬奈木 俊介 氏（九州大学教授）

のらりくらりと 数学を

まつひら なおき
松平 有生
(応用理学・福岡)



最近、人生に詰め込むものが増えてきたなと思い、取捨選択することの難しさと大切さを痛感しています。とうとう仕事でも「AI活用」の機運が高まってきました。大変便利ですが、まだまだ上手く使えないことに歯がゆさを感じています。

昨年40を迎えましたが、ようやく自分が「ずぼら」、「計画性のなさ」、「注意力散漫」といったタグが似合う人間なのだと気づきました。悲しいかな最近、それらに加えて「物忘れ」も付いてきたように感じます。

そんな私の数少ない趣味（とりわけ人様に公言できる趣味）は「数学」です。昔は「数学が趣味です」と言うのをためらっていました。距離を取られそうです。ですが、偶然はまった対象が、ゴルフでも車でも競馬でもなく、数学だっただけです。「別にええやん」そう思いながら、これからは堂々と公言してい

きたいと思います。

ただし、趣味といっても高度なことは理解できません。難解な定理などは、「何それ」といった感じです。かろうじて覚えているのは三平方の定理の公式くらいでしょうか。三角関数の定理などは高校卒業とともに卒業しました。

なぜ三平方の定理を覚えているかということ、実はキャリアの途中で数年間、中学校の教員（数学）をしていたからです。考える楽しみを伝えたかったのがきっかけでした。当時は、技術士会も退会するというので、青年部会の皆様には多大な迷惑をおかけしたと、今でも思い出すと顔面が熱くなります。

訳あって再度、技術職の道に戻りましたが、取り組んでいることは、やはり数学の延長上で、最近では建築構造の最適化に関するテーマがもっぱらの関心事になります。数学の出番が多く、もはや仕事のために数学を使っているのか、数学を使うために仕事をしているのかわからなくなってきました。

振り返れば、私の生き方は「数学を使うこと」が軸になっているようです。そういった意味で、これからも、のらりくらりと数学的な思考を楽しみながら、この道を進んでいければと思います。

所属：エス・イー・アイ構造設計株式会社
(E-mail: matsuhira@sai-structure.com)

趣味と実益の 野菜づくり

つみ 清
堤 清
(建設、上下水道、総合技術監理・北九州)



私は福岡県南部の八女で生まれました。高校卒業と同時に北九州市役所に入職し、河川、道路、下水道等、主に都市基盤整備に42年間携わりました。

趣味と言えば、家内が義父から相続した約3反の畑を40代後半から耕作し、季節の野菜を作っています。畑は上野焼で有名な上野町（現福智町）にあります。3反と言っても1本40mの畝が20本とれる広さです。40代後半に義父から少し手伝って欲しいと言われて、いつの間にか自分が耕作するようになりました。現役時は土日しか行けず、雑草でいっぱいになってしまいます。

そこで、4年前にはとうとうトラクターを田舎の叔父さんに譲ってもらい、従兄に小屋を作ってもらいました。電気を引き、以前からあった浅井戸からポンプで水を揚げるができるようになりました。また、水道も引き、ポリタンクで水を運ばなくてよくなりギックリ腰にもならなくて済む様になりました。

た。

退職前後で始めた技術士の試験勉強中は、数年間元職場の上司や同僚の皆さんに耕作を手伝っていただきました。先日、何とか総監も取得でき、心置きなく畑作業に打ち込むことができるようになりました。

早速、今年の春はジャガイモを植えています。もともと凝り性でもあり、男爵、メークイン、アンデスの赤芋を植えました。ジャガイモは収穫が早く、梅雨入り前後には収穫できます。5月連休の時期は夏野菜の植え付け時期です。近くのホームセンターや種物屋さんには所狭しに苗物が並びます。今は、自宅で赤里芋、白里芋、土佐大生姜の芽出しをしています。畑には、種物屋さんで買った、きゅうり、なす、ゴーヤ、オクラ、中小トマト、ピーマン、鷹の爪、九条ネギ等々を植えたところです。

また、八女の実家から貰ってきた茗荷を広く植えています。もう芽が多く出てきており、夏にソーメンに入れて食べるのを楽しみにしています。昨年はイノシシ被害が出たそうで、その戦いもこれから始まります。季節を感じ、鳥の鳴き声を聞きながらゆっくり野菜づくりを続けていきたいと思っています。

所属：堤清技術士事務所
(E-mail: namibirth0928@yahoo.co.jp)

節目の歳に

あらすな たかふみ
荒砂 隆文
(建設、森林・佐賀)



冒頭からネガティブな話ですが、今年で節目となる50歳を迎えるにあたり、自身の体力や知力に強い衰えを感じるようになりました。体力に関しては、ちょっとした階段の上り下りで息切れを生じたり、着衣に張りを感じるなど、目に見えて衰えているのを実感しています。また、知力に関して言えば、人の名前を覚えられなかったり、若い頃には考えられなかったような凡ミスを犯したりが日常茶飯事です。

若い社員を指導する立場になり、自身の管理が全く出来ていないことに焦りを感じ、一念発起で心身の改善に取り組むことを決意しました。

まず、体力の改善のために、スポーツジムを契約しました。ちょっとした筋トレやウオーキング程度であれば、お金をかけずに比較的手軽にできますが、高い月謝を払うことで、もったいない気持ちが原動力になりました。筋トレの動画で研究を重ね、今で

は週に3～4日の筋トレが習慣となり、日々変化していく体を鏡で見るのが楽しくなってきました。

次に知力の改善ですが、こちらは一筋縄ではいきそうにありません。2年前までは現場の最前線で脳と体をフル活動していましたが、今はどちらとも言えは経営の方の比重が大きく、工期前に切羽詰まる状況が少なくなったことが脳の衰えを加速させていると考えました。そのため、少なくとも年に4～5件の業務をこなすようにしました。ブランクは2年程度ですが、明らかに作業の速度や精度が衰えており、技術者としての焦りを感じたところでした。生涯技術者であるためには、やはり自身で業務に深く従事し、常に新しい技術を取り入れつつ、自己研鑽し続けなければならないと痛感しています。

最後になりますが、今年、約20年ぶりに技術士試験に挑戦しようと思います。「まだまだやれる!」ということ自分を言い聞かせることと、生涯挑戦しつづけることの大切さを、若い社員に示すことが目的です。100歳まで生きるとすれば50歳は丁度半分、まだまだ若手のつもりで一年一年を大切にしたいと思います。

所属：国土防災技術株式会社
(E-mail: arasuna@jce.co.jp)

『無名橋の名づけ親プロジェクト』

きはら まこと
木原 真
(建設、総合技術監理・長崎)



みなさんは、「道守」という資格をご存じでしょうか。「どうしゅ」ではなく、「みちもり」と呼びます。これは、長崎大学が平成18年から行っている講座で、「橋梁」「トンネル」などの道路構造物の維持管理を行うための人材を養成するためのものです。その修了生で組織した「道守養成ユニットの会」で、昨年「無名橋の名づけ親プロジェクト」というものを立ち上げました。

活動1年目は、たまたま同級生に自分の住む諫早市の市長と小学校の校長がいたので、はじめに、この2人に声をかけて、その後、市道路課と教育委員会の協力を得て、最終的に児童に2つの橋の名づけ親になってもらうことができました。

やってみてわかったのですが、市が管理する橋は、全部で883橋あって、そのなんと3割には名前がついていないことがわかりました。

橋に名前がついたら、何が変わるでしょうか。

大雨が降って、もしその橋の近くで川が氾濫していたら、どうでしょう。名前がなければ、その位置を具体的に示すのはなかなか難しいです。でも名前がついていたら、小学生でも「〇〇橋の横で川があふれています。」と正確に伝えることができます。もし、その橋の横で交通事故が発生してしまったらどうでしょう。「〇〇橋の横で車がぶつかっています。」と正確な位置を伝えることができます。

もし、自分の住む自治体でもやれそうだなと思ったら、ぜひチャレンジしてみることをお勧めいたします。



所属：株式会社アサヒコンサル
(E-mail: m-kihara@asahiconsul.co.jp)

ミニ特集 『趣味・特技、社会貢献、心に残る言葉・出会いなど』

「続いている好きなこと」

つやま てるお
津山 輝男
(応用理学(地質)・熊本)



自分の趣味はと自問すると、登山・スキー（今や年齢的に辛い）、釣り、ハーモニカ、ドローンによる空撮、読書など横好きな事は多いが人に自慢できるほどのものはないのに気が付く。

①カラオケで好きなもの同士で昭和歌謡を歌う

大学時代のクラブの後輩の誘いで、年4回カラオケ三昧の定期歌会を、熊本のとあるスナックで継続している。歌うのはお互い好きな「昭和歌謡」。元気で上手な歌姫もいて楽しい集いが続いたが、残念ながら転居や病気でマドンナ喪失の事態ともなった。最近新しいメンバーとも知り合い、下手な歌でも続けていこうと頑張っている。

五木寛之氏のエッセイのなかに「歌は生きる力」と書かれている部分がある。御本人は「愛の水中花」

等歌謡ヒット曲の作詞家でもあるが、書いてあるのは浄土真宗の和讃のことである。和讃はブツダの教えの神髄を伝える歌とある。現代の演歌に通じるだろうか？北国の吹雪の現場の厳しさを思い出す、石川さゆり「津軽海峡・冬景色」という具合である。時代の好きな歌は、その時々的人生の応援歌でもあったし尽きない郷愁である。

②アウトドア料理

登山は若い頃から好きであったが、キャンプなどすると人に勧められるほどの野外料理の腕前はない事を痛感し、ずいぶん前から練習を始めた。南部鉄鍋ひとつで「鶏団子うどん鍋」、「芋煮鍋」、「ボルシチもどき」、「ビーフストロガノフ」等は作れるようになってきた。しかし料理の道は深く「今日は旨い」「不味い、失敗した」と自己批判しきりである。

自分でやると妻の毎日の手料理への感心感謝が深まる。孫達も育ってきたので自慢のキャンプ料理を振舞えるようになるのが、この修行の楽しみである。

所属：株式会社日峰測地

(E-mail: tuyama-teruo@hi-ho.ne.jp)

「オンとオフの相乗効果」

きした てつじ
木下 哲治
(建設・宮崎)



日々の業務において、私は社内および建設現場におけるICT化、DX推進に注力しています。たとえば、建設機械の遠隔無人化施工の導入もその一つです。建設業界が直面している深刻な人手不足といった喫緊の課題に対応するため、デジタル技術を駆使した「圧倒的な省人化」と「業務の効率化」の実現を目指し、日々試行錯誤しています。安全かつ快適な室内から現場を動かす。そんな最先端の技術と向き合い、現場の生産性を極限まで高めることが私のミッションです。

しかし、平日にデジタル空間と向き合い、徹底的に「快適さ」と「効率」を追求している反動からか、週末の私は、それらとは全くかけ離れた「非効率」で「不便」な別世界に身を投じることをこの上ない楽しみにしています。

私の趣味は、ゴルフ、バイクツーリング、そして妻と愛犬と一緒に楽しむキャンプです。ゴルフは、計算通りには進まない自然と己の身体との対話であ

り、思い通りにスコアが出ないアナログなもどかしさが魅力です。地元の同級生とのツーリングでは、容赦ない暑さや凍える寒さなど、時には不快さや不便さを感じることもあります。しかし、エンジンの鼓動を全身で受け止めながら走ると、なぜかそれが最高に楽しく、デジタルでは味わえない解放感を得られます。

そして、妻と愛犬とのキャンプは、あえて現代の「快適な暮らし」を手放す究極の非日常です。テントの設営から火起こしまで、日常ならスイッチ一つで済むことに時間をかけます。しかし、その不便さの中で自然の音に耳を傾け、愛犬と駆け回り、妻とゆっくり火を囲む時間は、心身を深くリセットしてくれます。

一見すると相反する業務と趣味ですが、これらは大きな相乗効果を生んでいます。休日の不便なアナログ体験があるからこそ、平日のデジタル技術の意義を深く再認識できます。また、自然の中で培う直感や心のゆとりは、未知の課題が多いDX推進において柔軟な発想の原動力となります。これからもオンとオフを行き来し、技術士として社会貢献を続けていきます。

所属：旭建設株式会社

(E-mail: tetsuji.k@construction.co.jp)

沖永良部島へ 赴任しました。

ほんじ ゆういち
本地 雄一
(建設、総合技術監理・鹿児島)



4月から鹿児島県の沖永良部島へ赴任しました。

奄美群島のひとつで、鹿児島市から南南西へ約500kmの位置です。沿道で白く揺れるエラブユリが歓迎してくれました。百合の語源は「揺り」だそうです。

島のいたるところに白い石垣があります。石は珊瑚礁由来で凸凹していて、太古の海に想いが巡ります。近年の異常な豪雨では、コンクリートを使用した治山は地下の伏流水の動きを阻害して、かえって災害のリスクが高まるとの見方があります。日本古来の工法として、伏流水を阻害しない石垣の活用や、木杭や栗石を土中に埋め込んで、木の根と菌糸を土中環境の深層まで誘導する有機土木が注目されてきています。菌糸は土を団粒構造にし、単粒締固めとは対照的に水の流れを阻害しないことで山を安定させます。

南西に隣接する与論島も管轄なので、定期的に

フェリーで行きます。すぐそこに沖縄本島が見えます。

今回、与論島の読み方は「よろんじま」であることを学びました。「ヨロントウ」の呼び名は1970年代の観光キャンペーンで広まった通称のようです。

沖永良部島の畑の土は赤いです。隆起珊瑚が風化して、出てきた鉄分が酸化してできたそうです。与論島も隆起珊瑚ですが、それほどは赤くはありません。

奄美群島のうち、奄美大島や徳之島には猛毒の蛇ハブが住んでいますが、沖永良部島や与論島にはいません。過去に島全体が海中に沈んでしまったために、死んでしまったという説が有力のようです。また、隆起珊瑚でできた島なので、アルカリ性の土が肌に合わないとの説もあります。

約30年ぶりに見た与論島の百合ヶ浜は、記憶のとおりに美しいままでした。陸の排水をそのまま海に流さずに、地下を通した浄化水を海底から湧きあがらせる循環を、島の住民が大切に守っているのでしょう。

両島とも島飲みの文化があり、黒糖焼酎を飲む機会が多いのですが、歳も歳なので、程々の酒量を心がけたいと思います。

所属：鹿児島県大島支庁沖永良部事務所
(E-mail: honji-yuichi@pref.kagoshima.lg.jp)

修習技術者の声

技術者としての今後

わたなべ けいし
渡部 慧士
(機械(修習)・熊本)



私は大学で機械工学を専攻していましたが、現在は建設業務に従事しています。専攻とは異なる分野に進んだ経緯は様々ありますが、もともと災害現場に測量士として携わる父の姿が身近にありました。

入社して二年が経過した現在、技術的にまだまだ不十分だと感じています。加えて、ベテラン層の退職、また中堅層の空洞化が進行しており、技術力の継承に支障をきたしています。これにより、インフラの維持管理や災害対応力の低下が懸念され、ひいては国土強靱化の推進に大きく影響を及ぼすと考えます。これらを鑑みると、若手技術者の台頭は必要不可欠であり、いち早く技術力をつける、すなわち技術士になる必要があると考えます。私は、以上のことを念頭に置き、当事者意識をもって日々業務に励んでおります。

また、今後の建設分野においては、AIの活用が不可欠であると考えます。具体的には、過去の設計データを基にした最適断面の提案や、図面の不整合の自動検出などにより、設計の効率化および品質の均一化が期待されます。さらに、インフラの維持管理分野においては、点検データを活用した劣化予測により、予防保全の高度化が図られると考えます。

私が携わった路面性状調査業務においては、ひび割れ、ポットホール、わだち堀れや路面IRIを正確に判断する次世代の道路点検DXシステムを用いました。その際、AIの判定結果と人の点検結果の差異を照合し、精度の確認と補正をしました。

この経験から、AIを効果的に活用する一方で、AIの判断は学習データや条件設定に依存するため、常に最適解が得られるとは限らないと考えます。このためAIに過度に依存するのではなく、その妥当性を適切に評価・判断する技術者の能力が重要であると認識しています。以上のことから、私は自身の技術力の向上にも努め、建設業務の高度化に貢献していきます。

所属：株式会社ARIAKE
(E-mail: watanabe@ariake-s.co.jp)

上海航路を支えた 出島岸壁

なか せ さとし
中瀬 聡

(建設、水産、総合技術監理、CPD認定・長崎)



1. はじめに

長崎港の港奥部に位置する出島岸壁は、大正13年（1924年）に完成した港湾施設であり、完成から100年を経た現在も長崎港の賑わいを支える重要な土木遺産である。現在、海側にはヨットやクルーザーが係留できる出島ハーバー、陸側には商業施設の出島ワーフが整備され、周辺は観光・交流の拠点となっている。本稿では、出島岸壁の整備に至る歴史的背景およびその構造的特徴について概説する。

2. 歴史的背景

長崎市は、急峻な地形により平地が限られていることから、古くより埋立によって市街地を拡張してきた。江戸時代初期の1636年には、海を埋め立てて出島が築造されるなど、港湾整備は都市形成と密接に関わってきた。一方、開国後の国際貿易の進展に伴い、長崎港には外国船の寄港が増加した。さらに20世紀に入ると造船技術の進歩により船舶の大型化が進んだが、当時の長崎港にはこれに対応する十分な水深や延長を有する係留施設が不足していたため、地理的優位性を十分に活かせない状況にあった。

こうした課題を背景として、大正9年（1920年）から着手された第3次港湾改修工事の一環として整備されたのが出島岸壁である。

3. 出島岸壁の構造

出島岸壁は、干潮時においても大型船が安全に係留できるよう、水深30尺（約9m）、延長230間（約

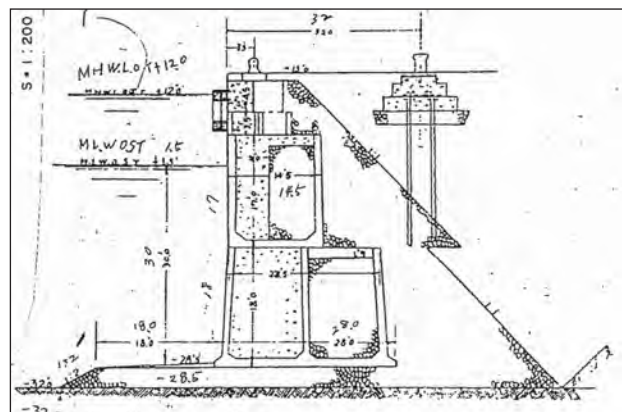


図-1 出島岸壁断面図(長崎県土木部港湾課提供)

420m) として計画された。これにより、8,000トン級船舶2隻または5,000トン級船舶3隻の同時係留が可能となり、当時としては先進的かつ大規模な港湾施設であった。

構造形式は、捨石マウンドを基礎とし、その上に鉄筋コンクリート製ケーソンを二段に据え付け、さらに上部に石積を施した重力式構造である（図-1）。この構造は現在に至るまで大きな変更はない。

4. 上海航路（日華連絡船）の就航

出島岸壁の完成前年である大正12年（1923年）2月には、日華連絡船の第1船である長崎丸が就航し、同年3月には姉妹船の上海丸も加わった。両船は最高速度21ノット（約40km/h）で、長崎—上海間を約26時間で結んでいた。これは、当時の長崎—東京間の所要時間が30時間以上であったことと比較しても、上海との距離的・時間的近さを示すものといえる。さらに昭和5年（1930年）には岸壁背後まで鉄道が延伸され、海上輸送と鉄道輸送が直結する交通結節点として機能したことから、出島岸壁周辺は多くの人々で賑わいを見せた。

5. おわりに

長崎市は「港の発展が都市の発展」ともいわれる港湾都市であり、その歴史は港とともに歩んできた。開港、戦争、高度経済成長期を経て港湾機能に変遷する中、出島岸壁周辺も内港再開発等により大きく姿を変えているが、出島岸壁はその歴史的・技術的価値を保持しつつ、港の賑わいを支える基盤として重要な役割を果たしている。

所属：長崎県水産部漁港漁場課

(E-mail: s.nakase@pref.nagasaki.lg.jp)

参考文献

岡林隆敏「上海航路の時代」2006年、長崎文献社



写真-1 現在の出島岸壁

中央・統括本部情勢

理事会

理事会報告

理事 にし い やすひろ
西井 康浩
(フェロー、建設、CPD認定、博士(工学)・北九州)



2025-27期の第6回理事会が、2026年3月12日に統括本部会議室において開催されました。今回、私はオンライン(WEB)で参加しました。

主な報告事項を2件程紹介します。

1-1. 「緩やかな連携」に関する日本技術士会の対応について【報告】

2026年1月21日現在、日本技術士会には、企業内技術士会4,042社、公務員による技術士会22団体、出身大学別技術士会41校、その他3団体から連絡を受けています。主な連携内容は、①技術士の普及啓発と認知度向上、②会員相互の交流と親睦、③異なる交流分野の交流促進、④継続研さんの支援、⑤技術士受験者の支援等です。ここで問題となったのが、⑤の受験指導です。日本技術士会は、技術士法第11条第1項の規定に基づき、文部科学大臣から指定を受けた指定試験機関として、技術士試験の実施に関する事務を実施しています。

これに順ずれば、指定試験機関として、技術士試験に関して誤解を生むような活動は慎まなければなりません。つまり、役員選挙で選ばれた日本技術士会の役員(統括本部、地域本部、県支部)は全て、受験指導は慎まなければならないということです。講演依頼を受けた際の講話の内での受験話も該当します。

ただし、この規定に準じない役員以外の一般の会員の方には問題ありません。

以上の対応として、団体等から協力や連携の依頼がある場合に対して、『遵守事項確認書(現在、検討中)』が準備されつつあります。

1-2. 2026年度収支予算等について【報告】

2026年度の一般会計と特別会計の予算書について報告を受けました。特に一般会計では予算繰りが厳しく、収支の改善が求められています。

その1つの事例として、新規入会会員の月刊誌送付のデフォルト設定がWEB閲覧になります。紙媒体での閲覧を希望される方は、選択の窓口が設けられています。また既往の会員には現行のままです。ちなみに現在すでにWEB閲覧者が2,451名おられます。

これまでの対応として、ラッピングを紙からビニールに変更することで、また送付業者を変更することで経費と送料の縮減を図っています。

所属：西井技術士事務所

(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

地域本部長会議

2025年度第4回 地域本部長会議報告

さ たけ よしろう
九州本部長 **佐竹 芳郎**
(建設、総合技術監理・福岡)



2026年3月4(水)機械振興会館(東京)で開催した2025年度第4回地域本部長会議の概要を報告する。

〔統括本部より説明〕

1. 修習技術者IPD事業について

2026年4月から始まるIPD事業の対応を適切にお願いしたい。登録が始まる。IPDはCPDの枠組みとほぼ同じである。唯一の違いは、IPDの項目には「修習技術者の指導」が含まれていない。

〔地域本部よりの意見要望等〕

1. 技術士CPD認定会員の増加と会員拡大に向けて協賛団体の増加や大学・高専との連携・協力について意見交換をしたい【中国本部】

(1) 協賛団体の増加→(北海道本部)入会している団体に口数の増加をお願いしている。CPD行事の無料券を配布している。

(東北本部)積極的に個別訪問。幹事が所属する企業には協賛団体になってもらっている。(近畿本部)協賛団体向けに、毎年協賛団体特別セミナーを実施している。(九州本部)協賛団体については、毎年1～2社入会していただいている。ただし、建コンが中心であり、今後は機械や電気部門にも働きかける。地道に取り組むしかない。

(2) 大学・高専との連携・協力→(北海道・東北・北陸・近畿・四国・九州本部)出前授業をしている。(中部本部)10校程度の大学・高専では15コマ程度の授業をオムニバスで実施している。(中国本部)2大学5高専と連携協定を結び、技術士制度に関する説明会や技術サロンを開催し理解を促している。(九州本部)毎年の防災技術展でも学生に技術士制度説明を実施している。

〔報告事項〕

1. 東北・九州本部は、地域産学官と技術士との合同セミナーを2026年11月及び10月に開催予定。
2. 北陸本部は、第52回技術士全国大会(石川・北陸)を2026年11月6日～9日開催予定。
3. 中部本部は、西日本技術士研究・業績発表年次大会(中部・愛知)を2026年11月27～28日名古屋市で開催予定。
4. 四国本部は、第56回日韓技術士国際会議(四国・高松)を2027年10月16日～18日開催予定。

所属：株式会社新世コンソーシアム

(E-mail: satake-yoshiro@ina.bbq.jp)

中央・統括本部情勢

統括本部総務委員会

総務委員会報告

委員 もちだ **持田** たくじ **拓児**
(建設・福岡)



2025-27期の第5回総務委員会と同地域小委員会が2026年4月15日に開催されました。総務委員会は、8件の審議事項と8件の報告事項について決議しました。また、地域小委員会では、4件の審議事項と6件の報告事項について決議し、通年で議論している、「委員会運営に関する規則」及び「役員等国内旅費交通費支給規則」の変更についてと、「地域からの実行委員会委員推薦に関する整理」について議論しました。

総務委員会での主な決定事項を下記に紹介します。

1. 「緩やかな連携」に関する審議事項

遵守事項確認書（案）について審議しました。規則・手引き・運用との関係整理等の意見を踏まえ、確認書・運営方法を含んだたたき台を作成の上継続

検討することが決まりました。

2. 「会員による活動グループ新規登録申請」に関する審議事項

「技術士業務実践研究会（PE JAPAN）」の登録申請について審議しました。情報発信、有償サービスの位置付け、グループ名称等に確認事項があるため、差し戻しとし、再審議することが決まりました。

3. 「2026年度新名誉会員」に関する審議事項

新名誉会員候補22名が承認されました。推薦条件に達しない6名に対しては、その旨を総務委員会名で通知することが承認されました。候補者一覧の年齢表記については事務局で再確認することが決まりました。

4. 「技術士CPD実績管理委員会の設置・運営規則の改定」に関する審議事項

第10条第3項及び第19条の修正を含む改定案が承認されました。

5. その他

地域組織からの審議・報告事項に関する説明が行われました。

所属：株式会社和晃地質コンサルタント
(E-mail: t-motida@wakou-tisitu.co.jp)

委員会・部会報告

総務・企画委員会

活動報告

委員 すえまつ **末松** まさのり **正典**
(機械、総合技術監理・北九州)



総務・企画委員会が所管する業務は以下に示す10項目である。

- (1) 本部の組織・運営管理に関する事項
- (2) 本部主催行事の企画・実施に関する事項
- (3) 事業計画・報告案作成に関する事項
- (4) 財務の管理に関する事項
- (5) 統括本部・他地域本部・県支部及び他団体との連携に関する事項
- (6) 役員会運営及び実施に関する事項
- (7) 会員の顕彰に関する事項
- (8) 会員拡大に関する事項
- (9) 国際的活動に関する事項
- (10) その他、他の委員会の所掌にない事項

所管項目が多いため、委員12名を3グループに分けて対応している。2025年度は前年に引き続き活

動を実施してきた。

1. 第1グループ；(4)(5)(6)(7)を所管。

- ・項目(4)：九州本部の予算と実行状況を把握し、問題が認められないことを確認した。
- ・項目(6)：県支部長会議や合同役員会に出席し、情報の収集と共有化を図った。

2. 第2グループの活動；(2)(3)(5)を所管。

- ・項目(5)：九州本部と各県支部（宮崎、熊本、長崎、大分、鹿児島、佐賀）との意思疎通にあたり、隣県同士の連絡会議の場を設定した。2025年度は、長崎と熊本間では長崎県支部でのCPDを熊本県支部へオンライン配信、大分と佐賀間では大分県支部で実施するCPDを佐賀県支部にオンライン配信することとした。2026年度も引き続き対応を検討の予定である。

3. 第3グループの活動；(1)(8)(9)を所管。

- ・項目(1)：統括本部の役員会や委員会へ出席し、参加して得た情報を基に対応を検討した。
- ・項目(9)：国際的活動に関する事項については、日韓技術士国際会議等がある。統括本部からの情報を得て対応を検討する予定である。

所属：末松技術士事務所
(E-mail: suematsu@hkg.odn.ne.jp)

地域産業支援委員会

「技術士の窓」閲覧 状況の報告

委員 たぐち ひろゆき
田口 宏之
(機械・福岡)



1. 「技術士の窓」の役割

これまで報告してきたように、当委員会では、企業の技術者がネット検索を通じて技術士会との接点を見出すことを狙い、九州本部HP内に寄稿文サイト「技術士の窓」を開設している。本サイトは、企業の方にも技術士会をより身近なものに感じていただき、地域の産業への貢献や技術相談の増加に繋げるための試みである。

2. 掲載状況とアクセス実績

2024年8月に開設以来、多くの方にご協力いただき、現在までに幅広い専門分野から24の寄稿文を掲載するに至った。皆様からの関心も高く、閲覧

数は順調に伸びている。直近の4月における「技術士の窓」全体の総閲覧数は792回を数え、過去最高を記録した。さらに、九州本部HP全体の閲覧数に占める当サイトの割合は19.6%に達しており、九州本部の広報活動においても確かな存在感を示すまでに成長している。



3. 寄稿のお願い

当委員会では、本サイトのコンテンツをさらに充実させるべく、寄稿文を執筆していただける方を県支部を含め広く募集している。内容は技術に関するものであれば、自己の体験談や基礎的な技術解説など、幅広く歓迎する。通常の文献では得られない貴重なヒントや経験を共有し、外部の技術者を含めたつながりを広げていきたいと考えている。ご興味のある方は、ぜひ当委員会までご連絡いただきたい。初めての方やリピートでの投稿も大歓迎である。皆様からの積極的なご参加をお待ちしている。

所属：田口技術士事務所

(E-mail: taguchi@taguchi-peoffice.com)

研修委員会

2025年度九州本部 第4回CPD報告

副委員長 よしずみ たかひさ
吉住 高久
(機械・福岡)



2026年2月28日(土)、九州本部研修委員会主催による第4回CPDが福岡商工会議所において開催された。参加者は会場43名、Web38名の合計81名であった。講師には4名の専門家にご登壇いただいた。

講演1. 「試行錯誤と技術者倫理～企業開発者の拙考～」

講師：中田 成幸氏

(日本技術士会九州本部 倫理委員会 技術士
(機械・総合技術監理))

倫理綱領の有能性の重視を出発点として、試行錯誤する技術者にとって役立つ知識を考え、失敗や多様性からの学び、経営者、科学者との関係について解説された。

講演2. 「炭鉱を語り継ぐ人々～旧産炭地筑豊における エスノグラフィ 調査の事例から～」

講師：川松 あかり氏

(九州産業大学国際文化学部講師／修士(学術))

本講演では、かつては国内有数の石炭産出地であった筑豊の人々に、エスノグラフィ(≒語り継ぎ)という視点から講演者が学ばせられたことについて解説された。

講演3. 「半導体産業と熊本の未来について」

講師：今村 徹氏

(熊本県産業振興顧問)

世界一の半導体製造メーカーであるTSMCが熊本へ進出することになった。再び日本の半導体産業は歴史的な変革期を迎えようとしている事について解説された。

講演4. 「筑後川の虹色地形図」

講師：松本 洋忠氏

(松本技術士事務所・元筑後川河川事務所長／博士(工学)、技術士(建設・総合技術監理))

筑後川中流域の河道のなりたちを、標高1mごとに色別けした虹色地形図と歴史的な文献情報を用いて分析した内容を解説された。

(E-mail: tac-tac_flag-zumi_7249@nifty.com)

委員会・部会報告

防災委員会

防災委員会活動

委員長 いしもと としあき
石本 俊亮
(建設、総合技術監理・福岡)



◇2026年度活動計画について

1. 防災教育活動計画

①小学校での防災授業

2020(令和2)年より実施してきた小学校での防災授業ですが、今年度は久留米市上津小学校より依頼があり、6月5日に4年生向け防災授業を実施することとなりました。

②大学との連携

昨年度は、2024(令和6)年より交流のある西日本工業大学土木工学科の学生へ防災授業の講義資料(マイタイムライン)を提供しました。今年度より、防災委員会のノウハウを提供するとともに、学生の防災意識の向上に向けた連携活動を進める計画です。

2. 防災CPD実施計画

昨年度末に「気象予報士に聞く気象リスクの予見方法について」と題して、防災CPDを実施しまし

た。CPD後のアンケートによると、今後に期待する声も多くあり、年1回程度の割合で、九州・沖縄地方の災害特性に深くかかわるテーマについて、防災CPDを実施する計画です。

3. 土業連携の推進

技術士会では、大規模な災害に備えるため、平時より他土業との連携を深め、災害時に迅速に活動できるよう統括本部を中心に土業連携を進めてきています。

九州本部では、2017(平成29)年の九州北部豪雨を契機として福岡県専門職団体連合協議会へオブザーバー参加しました。被災者支援制度研究会に参加し、勉強会にも参加するとともに、災害時の被災者相談会へ参加してきました。このような活動を九州各県の土業団体にも認識いただき、連携活動につなげたいと考え、1月に熊本、宮崎、沖縄の弁護士と協議し、8月に宮崎県の土業連絡協議会の定例会にオブザーバー参加する計画です。

4. 九州本部SAPD運用計画策定

大規模災害に備えるため、2024(令和6)年に災害時支援活動計画(SAPD)を策定しました。今年度は、実効性を高める事を目的に、手続等について具体的な内容を定める計画です。

所属：アジア共同設計コンサルタント
(E-mail: toshiaki_ishimoto@yahoo.co.jp)

青年技術士交流委員会

合格祝賀CPDの 開催報告

やまだ あきみち
山田 暁通
(情報工学・福岡)



2026年5月9日(土)、九州本部主催(福岡会場)の2025年度技術士試験(第一次及び第二次)合格祝賀CPD(研鑽会)を福岡商工会議所で開催、総勢39名(新合格者9名)の参加がありました。

■合格祝賀ワークショップ

例年実施している合格祝賀ワークショップでは、今年度のテーマを「部門連携による持続可能な社会の実現」として実施しました。

ワークショップに先立ち、太田伸良氏(上下水道)、吉田憲治氏(上下水道・総合技術監理)、八百屋さやか氏(衛生工学)の3名から意見発表が行われました。各発表では、技術士資格取得後のキャリア形成や、部門連携による社会課題への対応、多様な技術部門が連携して持続可能な社会づくりに取り組む意義などについて紹介がありました。

ワークショップでは、新合格者と先輩技術士による混成グループを編成し、自部門における課題抽出から解決策の検討、成果発表までの各ステップに取り組みました。3名の意見発表を受けて活発な議論が行われ、異なる専門分野の知見を持ち寄ることで単一部門では気付きにくい課題や解決策が提示されるなど、部門連携の重要性を改めて認識する機会となりました。

■新合格者自己紹介、記念撮影、合格者祝賀会

ワークショップ終了後、青年技術士交流委員会活動の紹介、新合格者による自己紹介と佐竹本部長を交えた記念撮影があり、会場からは合格を祝福する多くの拍手が送られました。閉会後の祝賀会(頤和園)でも、新合格者との多くの交流がありました。



佐竹本部長を交えての新合格者集合写真

所属：株式会社ロバストプラン
(E-mail: akimichi@robustplan.com)

北九州地区支部支援委員会

1～4 月度の報告

委員長 **む た ひであき**
牟田 英昭
(建設、総合技術監理・北九州)



個性ある14名の講師が登場し、熱心な質疑応答が繰り広げられた。参加者総数211名。

【1月度】1.「大型ターボ機械の製造技術（遠心圧縮機用インペラ）」・中嶋 宏氏（三菱重工コンプレッサ株式会社）2.「食べる・話す・生きるを支える歯科材料」・永松 有紀氏（九州歯科大学生体材料学分野）3.「大学における教育接続と地域人材の学び増し」・安永 卓生氏（九州工業大学・副学長）【2月度】4.「新規窒化物硬質被膜の創生および乾湿複合プロセスを用いた樹脂めっきの開発」・吉田 智博氏（福岡県工業技術センター機械電子研究所）5.「ルテニウムめっき液の開発とスクラッチ試験機による密着性評価法」・奥田 龍之介氏（福岡県工業技術センター機械電子研究所）6.「粉体プロセスにおける粒子特性及び粉体特性の重要性と課題」・尾形 公一

郎氏（大分工業高等専門学校）7.「金属部会活動と技術者倫理勉強会活動」・田中 和明氏（株式会社川熱、技術士金属部会部会長）【3月度】8.「福島途上国汚物循環モデルの提唱」赤石 惟衆氏（(株)E-SYSTEM、総監・建設・衛生工学）9.「“社長！それって本当に売れますか？”～技術者のための「マーケティング入門」～」野村 利則氏（野村技術士事務所、総監・情報工学）10.「工学系大学におけるAI・IoT、フィールドロボティクスの教育・研究の展望」武村 泰範氏（西日本工業大学・電気情報工学系）【4月度】11.「技術士の活動を通じた”生産現場のプレゼンス”向上を目指して(合格体験談)」古川哲也氏（味の素株式会社 九州事業所、生物工学）12.「空港インフラを守る技術者として～二次試験合格までの学びとこれから～」西川晋弘氏（株式会社エー・アール・イー、建設）13.「AI/AGI時代のワンヘルスー人間が「人間」として踏みとどまるための羅針盤」今村和彦氏（公益社団法人福岡県獣医師会・副会長）14.「今後の技術者の育て方～地域内連携の取り組み～」福岡 仁氏（株式会社 親和コンサルタント、建設）

所属：牟田技術士事務所、西日本工業大学非常勤講師
(E-mail: muta.san06@gmail.com)

試験業務支援委員会

活動報告

委員長 **稲垣 浩通**
(建設・福岡)



令和8年度の試験日程が公表されました。

二次試験 申込期間 4月1日～15日
試験日 総監 7月19日（日）
総監以外 7月20日（祝月）
口頭試験 令和8年12月上旬～令和9年1月中旬
合格発表 筆記試験11月上旬、口頭試験3月中旬
一次試験 申込期間 6月10日～24日
試験日 11月22日（日）
合格発表 令和9年2月

試験日程に合わせて、試験会場現地確認打合せ、事前支援委員確認打合せ、試験実施、会場お礼訪問、支援委員反省会を実施する予定です。

二次試験は、例年試験会場の福岡工業大学1会場で実施されていますが、今年は福工大B棟リニューアル工事中の為、試験収容人数が減少します。7月19日の総監試験は問題無いのですが、総監以外の

試験が実施される7月20日は、収容人数不足の為、福工大と西南大の二会場に分散して実施される予定です。

二次試験会場訪問打合せを5月18日に福工大、5月19日に西南大を関係者と同行して、実施致しました。

また、一次試験も例年の試験会場の九州産業大学がイベントの為に会場変更となる予定です。試験地は福岡県のほか、今年度から新たに鹿児島県が追加され、複数の試験地での実施に向けて準備を進めています。

さて、このように試験会場が分散されますので、試験業務運営スタッフが不足しております。現在私を含めて8名のスタッフおよび本部長・事務局員で運営しております。しかし各会場で試験本部長・統括試験監督員・試験本部員数名が必要となりますので、基本的にスタッフ不足となっております。是非試験業務支援お手伝い頂ける方はご連絡ください。ボランティア活動の技術士会ですが、唯一日当が支給されます。この技術士日より、九州が発行される頃は、二次試験準備最盛期でバタバタしているでしょう。

所属：株式会社太平洋コンサルタント
(E-mail: Hiromichi_Inagaki@taiheiyo-c.co.jp)

委員会・部会報告

合同役員会

2025年度事業報告 全国大会の報告など

事務局長 てらち まる
寺地 守
(建設・福岡)



4月24日2025年度第3回合同役員会が開催されました。議事録は、九州本部HP会員専用に掲載されています。

主な議題は、2025年度事業報告、2026年度事業計画、これに伴う会計決算、計画などが報告、審議されました。また第51回技術士全国大会が熊本で開催され、その事業報告、会計報告がありました。

ほかに会長表彰5名の推薦報告、本部長表彰5名の決定、協賛団体会員への3社入会承認、西日本工業大学との包括的連携案、九州地整新技術評価会議への支援規則案が審議されました。

2026年度は10月「地域産学官と技術士の合同セミナー」が予定され、大会テーマや国の機関への後援許諾申請が審議されました。

理事会や本部長会議のほか、統括本部常設委員会、

実行委員会等の参加委員から最近の動きが報告されました。技術士会として、修習技術者を対象に、IPD（初期専門能力開発）が新たに始まったことがあります。

事業報告では、コロナ禍以降、委員会、部会、県支部の活動でオンライン参加の動きが普及してきました。より普及されることを期待します。

全国大会は、熊本に多数の技術士の参加、来賓など出席され成功裡に終わりました。参加者、スタッフなどの協力に感謝します。

事業計画、今後の方針では、2025年度収支が大減減となったことから、収支改善に取り組む必要があります。本部や委員会、部会の研鑽活動、対外的な活動を進めつつ、収入増に向けた会員拡大、参加費増収、活動への補助金活用、支出減に向けては経費節減、オンライン参加の活用などがあります。会員の皆様にはご不便を感じるところもあるかも知れませんが理解とご協力をお願いするところです。

2026年10月には福岡で地域産学官と技術士との合同セミナーを開催します。九州本部HPなどご案内しますので会員の参加、協力をお願いいたします。

所属：株式会社長崎国見測量設計
(E-mail: bzw02750@nifty.ne.jp)

建設部会

建設部会報告

部会長 おかだ ひろあき
岡田 裕彰
(建設、総合技術監理・福岡)



今年度第1回目の建設部会運営委員会を4月21日に九州本部会議室で開催しましたのでその概要を報告します。尚、出席幹事は9名でした。(写真参照)

1. 役員の退任・就任について

杉本正二幹事が2025年度末をもって建設部会幹事を退任することとなりました。

杉本幹事は建設部会の部会長をはじめ役員として長年部会の企画・運営に力を尽くしてこられました。これまでのご尽力に対し改めて御礼申し上げます。

また、7月より佐田富敏行氏が新たな幹事として就任する予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 昨年度の建設部会の活動について

昨年度は現地見学会を11月11日に実施しました。

見学先は北九州空港並びに苅田港の2箇所、九州地方整備局、北九州エアターミナル(株)、福岡県の皆様のご協力をいただき、北部九州地域の旅客

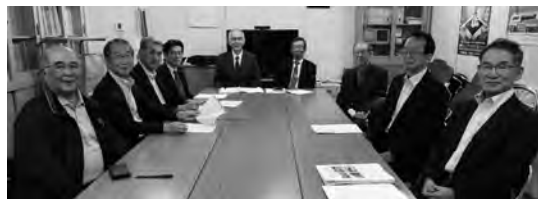
輸送物流の拠点の一つである両施設の整備状況を視察させていただきました。(参加32名)

次に、技術講演会は令和8年2月27日に開催しました(参加37名)。尚、講演会の詳細については本誌で建設部会藤島幹事が報告していますのご参照ください。

また、その他の活動として昨年10月に熊本市で開催の技術士全国大会の関連行事として開かれた建設部会意見交換会に出席し、統括本部を始め全国8地域本部の皆さんと地域の課題等に関して意見交換を行いました。

3. 今年度の活動方針について

今年度も技術講演会(CPD)や見学会に積極的に取り組みます。技術講演会については今年度も会場とWEB併用のハイブリッド形式で開催する方針といたしました。尚、現地見学会、技術講演会のテーマや実施時期等については、詳細が固まり次第HP等でお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。



所属：西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社
(E-mail: hiroaki.okada.km@nnr-g.com)

みどり部会

活動報告

部長 ^{やま} **山部** ^{てつろう} **鉄朗**
(森林・福岡)



1. はじめに

2025年10月25日から熊本市で開催された第51回技術士全国大会（九州・沖縄）において農業部会小風会長の呼びかけで、初めての試みとして九州本部みどり部会、農業部会・森林部会、水産部会合同意見交換会を実施しましたので報告します。

2. 意見交換会

熊本城ホール会議室において、来賓に農業部門技術士で参議院議員の進藤金日子氏をお迎えし、全国からの35名の参加者によって実施されました。

3. 各部会での取り組み

各部会・地域本部では、講演会のWeb配信によるCPD参加拡大、県支部への配信による活動活性化、農業・森林・水産を横断した合同講演会の開催など、多様な工夫が進められています。

また、大学生の現地見学会・講演会への参加促進

や一次試験受験の支援、県支部間の合同講演会、士業連携による災害対応、地方農政局への講演依頼など、地域に根ざした取り組みも展開されています。さらに、他部会との連携強化や、林野庁・水産庁・環境省との定期的な意見交換による資格活用の要望など、行政・学術分野との協働も進められています。

4. 今後の取組

今後の活動としては、特にCPDに関する情報共有の強化、IPD・一次試験・JABEEを踏まえた大学との連携拡大、学部再編を見据えた学際的交流、技術士とアカデミアの融合促進が提案されました。



「九州本部みどり部会・農業部会・森林部会・水産部会合同意見交換会」
終了後の参加者全員(35名)での写真 10月25日(土)
進藤金日子と党技術士議員連盟副幹事長、小風農業部会長、圓山副会長
(農業部門)、山部九州本部みどり部会長、寺川森林部会長、城土理事(森林部門)、
清水水産部会長、丹羽理事(水産部門)、高田中国本部農業/森林/水産部
会長、渡邊九州・沖縄農業土木技術士会会長を囲んで

所属：株式会社コンサルハマダ福岡支店
(E-mail: angle26of26repose626@gmail.com)

環境部会

環境部会報告(幹事会)

部長 ^{まつだ} **松田** ^{けんし} **研志**
(上下水道、建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

環境部会は、九州地区の上下水道部門、衛生工学部門、環境部門の3部門からなる部会です。

本稿では、2026年5月18日(月)に実施した環境部会第1回幹事会について報告いたします。

2. 2026年度活動計画と体制の確認

環境部会の今年度の幹事は、(上下水道) 太田伸良氏、工藤修一氏、小峰和彦氏、佐々木安治氏、松尾孝則氏、真鍋和義氏、(衛生工学) 岩永宏平氏、長孝良氏、和田義昭氏、(環境) 古賀照久氏、中田憲一氏、長谷川雄太氏、村橋輝紀氏の皆様です。

今年度は例年のように、講演会1回と見学会1回を実施しますが、九州本部の財政状況が厳しいため、経費を極力削減する方針としました。

3. 講演会の計画

今年度の講演会のテーマは、「九州のエネルギーの現状と課題」と「九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり」としました。講演会の開催は、10月上旬の予定です。

4. 見学会の計画

今年度の見学会の見学先とテーマは、①ワンビル(テーマ：最新のビルの環境技術) ②アクロス福岡(テーマ：既存のビルの環境技術) としました。見学会の開催は、11月下旬の予定です。



所属：松田技術士事務所
(E-mail: matsu1@docomonet.jp)

委員会・部会報告

ものづくり部会

活動報告

幹事 いしだ ゆうじ
石田 雄二
(経営工学・福岡)



ものづくり部会では、今年度の最重点活動方針としてIPD (Initial Professional Development) を掲げ、次世代を担う技術者のコンピテンシー（資質能力）育成に本格的に着手する。激変する製造業の基盤を維持・発展させるためには、若手への体系的な技術承継とマインドセットの変革が急務である。本稿では、当部会が目指すIPDの具体像として、私自身のこれまでの実体験と知見を共有したい。私が前職の電機メーカー時代に経験した全社的な信頼性確保プロジェクトでは、応急・恒久対策の並行、三現主義に基づく原理原則の追求、そして解決策をQCストーリーに従って体系化し、後輩技術者へ確実に伝承するプロセスが徹底されていた。華やかな研究開発に比べ、当初は「守り」に見えがちな品質管理

業務であったが、この「徹底した品質管理の思想」の根底にあるのは、公衆の安全と利益を最優先に守るという技術者倫理そのものである。不具合を未然に防ぎ、社会的な信頼に応える倫理観と責任感という本質的な資質能力を若手が獲得するためには、こうした全体を俯瞰する良質なOJT環境の構築が不可欠である。

現在、大学の教育現場において、企画・設計から製造・保全に至るまで「ものづくりの上流から下流まで」を連続的なプロセスとして指導する立場からも、座学に留まらず、実際の課題を通じて若手の倫理観を伴う資質向上を刺激する仕組みづくりは、当部会が今年度推進するIPDの活動方針と強く合致するものである。今年度、ものづくり部会は、この「全体俯瞰の視点」と「技術者倫理に基づく品質管理の思想」を軸としたIPD推進プログラムを展開していく。建設・製造の枠を超え、次世代を担う若手技術者が確固たるコンピテンシーを確立できるよう、部会一丸となって実践的な育成環境の提供と、IPDの普及に貢献していく所存である。

所属：西日本工業大学工学部
(E-mail: ishida@nishitech.ac.jp)

支部だより

北九州

北九州地区支部 CPD紹介

副代表 みやざき てるみ
宮崎 照美
(環境、博士(工学)・北九州)



北九州地区支部技術士会は1980年に設立され、今年度の研修会（CPD）は、8月の夏季休暇を除き、毎月1回の計11回を、そのうち10月は施設見学会、11月は公開シンポジウム・懇親会・2次試験合格祝賀会を計画しており、年度末にはCPD開催累計470回を超えます。現在は、会員希望の聴講スタイル（会場またはオンライン）で参加可能となっており、遠方からの参加者も徐々に増えています。

現在、このCPD運営に当たっては、代表1名、副代表3名を含む13名の幹事と顧問4名の計17名が中心となり活動しています。会員にとって有益なCPD開催および参加人数700名超え（会場およびWeb参加の年度合計）目標達成のために、6回／年の面着での幹事会を始め、幹事間のSNSも活用し日頃より盛んに意見交換が行なわれています。

北九州地区支部技術士会の特徴は、21部門のうち、20部門の会員が所属しており、これは幹事・顧問の部門および所属（元を含む）にも反映されています。そのため、CPDでの講演においては技術士をはじめ、技術士以外の産学官民所属の講演者による幅広い分野の内容を聴講することができます。技術士は自分の専門分野には深い知見・知識・経験を持っていますが、他の分野においては素人同然です。私自身もCPD参加において、他分野の最新技術、開発の歴史やその過程における苦労、また昨年度は、大学教授によるAI時代における人間の役割、さらには現役学生によるロボット開発およびコンテスト挑戦の話聞き、度々脳や心を触発されてきました。また、CPD終了後には、講師を囲み有志参加型による懇親会が開催されることも多々あります。ちなみに、CPD受講料は技術士会会員5,000円／年、支部会員外の方は1,000円／回のご負担をお願いしております。

全国の技術士の皆さん、北九州地区支部でのCPDに一度参加してみませんか。心よりお待ちしております。

所属：日鉄環境株式会社
(E-mail: t.miyazaki.nske@gmail.com)

熊 本

2025年度の活動

広報委員 ^{ぬま ち}沼地 ^{えい じ}英二
(建設・熊本)



熊本県支部では、2025年度に第12回年次大会開催、CPD研修会4回実施、現場研修会（第51回技術士全国大会）に参加、先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本2025への出展・参加、会員交流会（ゴルフコンペ）開催、役員会4回実施しました。

(1) CPD研修会 4回実施

- 第1回 ・熊本地域における地下水資源の持続可能な管理のあり方
- 第2回 ・送風機自動システムの開発について
・水圏環境中における栄養素と生物生産について
- 第3回 ・舗装設計を基にした土木技術者の人材育成について
・新しい測量手法のメリット・デメリットについて

- 第4回 ・農業・農村をめぐる情勢・課題などに立ち向かう圃場整備事業の担当者として考えること
・忍び寄る悪徳の心

(2) 現地研修会（第51回技術士全国大会時）

- パートナーズツアー 10月26日（日）
豊前街道（米米惣門ツアー）、山鹿灯籠民芸館、八千代座、熊本県立装飾古墳館
- テクニカルツアーA 10月27日（月）
阿蘇神社、新阿蘇大橋、阿蘇震災ミュージアム、阿蘇火山博物館、熊本県防災センター
- テクニカルツアーB 10月27（月）、28日（火）
球磨川災害復旧工事現場、青井阿蘇神社、通潤橋、熊本県防災センター

(3) 先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本2025へ出展・参加

防災教育の充実、技術士・技術士会の紹介

(4) 会員交流会開催（ゴルフコンペ）

2025年12月開催、参加者は12名。

交流を深め、楽しくゴルフができました。

所属：旭測量設計株式会社

(E-mail: numachi@asahi-sk.com)

宮 崎

CPD研修

広報委員 ^{かん だ}神田 ^{とし ひろ}稔弘
(建設、総合技術監理・宮崎)



宮崎県支部におきましては、昨年度は計3回のCPD研修会を開催しました。その実績は以下の通りです。

第1回研修（2025年9月13日）

「化学物質の自律的監理の基本」下津義博（下津技術士・労働衛生コンサルタント事務所）

「私の技術者倫理（何も知らない私たちは幸せになるために生まれた）」佐藤光雄（エヌティエス技研株式会社）

第2回研修（2025年11月29日）

「未来はこうなる遠隔無人化施工への挑戦」木下哲治（旭建設株式会社）

「宮崎県における盛土規制法に係る盛土対策について」前田秀高（宮崎県盛土対策課）

第3回研修（2026年2月21日）

「脱炭素・人手不足に挑むプレキャスト技術：DXと

の融合」坂本和也（インフラテック株式会社）

第3回のCPD研修におきましては、講師をもう1名予定しておりましたが、ご家族にご不幸があったため、1名での実施となりました。

昨年度のCPD研修における最大の挑戦は、Web形式によるオンライン配信を導入した点にあります。他県支部ではすでに定着しているオンライン研修ですが、宮崎県支部にとっては初めての試みでした。立ち上げにあたっては、「機材や装備として何を準備すべきか」「無料のZoomは使い慣れているが、有料ライセンスの運用はどうすればよいか」など、まさに課題は山積している状態でした。しかし、鹿児島支部の高畦氏や、第1回研修の講師を務めていただいた大支部の佐藤氏から温かいご指導を仰ぐことで、何とかオンラインで参加された会員の皆様へ研修会の映像を届けることができました。音声の不具合や動画配信時のトラブルなども発生しましたが、どうにか第2回、第3回もオンライン開催を重ねることが出来ました。

今年度は、この経験をベースに、他県支部との連携をさらに深めたCPD研修を展開していきたいと考えております。

所属：株式会社エム・ケイ・スリー

(E-mail: pe.kanda1958@gmail.com)

支部だより

鹿児島

支部だより

支部長 い うち よしひと **井内 祥人**
(フェロー・森林・博士(農学)・鹿児島)



1. 第50回CPD講演会

5月9日(土)、第50回CPD講演会を開催した。2013年8月に第1回目を開催して以来、13年間で50回の開催となった。この間、COVID19による感染拡大防止対策で3回、昨年8月は開催当日の豪雨により中止せざるを得なかった。しかし、50回も開催できたことは、会員を初め、県民の皆様のご理解の賜だと思っている。

今回のCPD講演会を機に、開催方法を試行的に大幅に変更した。一つ目は、会費の事前納入制である。これまでは、当日、会場入口で会費を徴収していたが、受付時に様々なトラブルが発生していた。そのようなリスクを軽減するために、事前納入制に改めた。いろいろ心配したが、思った以上にスムーズに会費が期限までに納入された。二つ目は、講演会配

付資料は当日会場で配布していたが、会費を事前納入した人のみにPDF送信配布を行ったことである。講演会当日、資料を持参しない人が数人、見受けられたが、これも慣れてくるだろうと思う。当支部では幹事全員がCPD講演会の準備を行うが、これらの試行策は幹事の負担軽減につながると考える。次回以降の様々なトラブルに対し、幹事全員で改善してゆきたいと考えている。

2. 合格者祝賀会

CPD講演会終了後、会場近くのホテルで技術士第一次試験、二次試験の新規合格者の祝賀会を開催した。今年是一次試験合格者5名、二次試験合格者1名の計6名の参加であった。新規合格者には、統括本部作成パンフレット、それぞれの名前が掲載された合格者名簿官報の写し、当支部発行の支部だよりを封筒に入れ渡している。この日は、講師に木下先生にもご参加いただいた。懇親会は、和やかなうちに進み、1時間もするとそれぞれの交流が始まり、終了予定時間を30分ほど超過し、盛会裏に閉会した。新規合格者が、一人でも多く日本技術士会に入会されることを願っている。

所属：中央テクノ株式会社
(E-mail: iuchi@chuuou.jp)

CPD報告

福岡

建設部会 CPD報告

建設部会幹事・事務局次長 ふじしま よしひさ **藤島 義久**
(建設、総合技術監理・福岡)



令和7年2月27日(木)、博多石川ビルで開催しました技術講習会についてその概要を報告いたします。

今回は、土木・建築分野の共通に繋がる構造材料と環境デザインをテーマに企画いたしました。

会場参加21名、WEB16参加名、合計37名の参加を得ました。

最初に熊本大学先端科学研究部教授の佐藤あゆみ氏から「構造材料の進化と課題～補修・補強・溶接技術から考える建築構造の安全性」と題してご講演をいただきました。

氏は、まずご自身のプロフィールとして、秋田県立大学でのご経験や熊本大学赴任への経緯から始められ、ハードなタイトルに反して、和やかな雰囲気を提供されました。ご講演は堅穴住居や世界遺産のマキーラ洞窟住宅群など、建築材料の進化の経緯の

ご説明から一気にご専門の建築構造・材料や施工、コンクリート工学に繋がれ、建築構造物の安全性を補修・補強・接着技術の視点からどのように確保していくのかを丁寧にご説明されました。打ち継ぎ界面の挙動やエポキシ樹脂を用いた後付けアンカー周辺の破壊に関する具体的な解析手法など、最新の研究動向として非常に興味深い内容でした。

続いて、九州工業大学大学院教授の伊東啓太郎氏から「地域の風土と自然の摂理に沿った環境デザイン」と題してご講演をいただきました。

氏のご専門が生態学、環境設計、ピオトープなどをキーワードにされるということもあり、今回のご講演も景観生態学の理論をベースにご講演を展開されました。氏は研究フィールドを国内だけでなく、ノルウェー、ドイツ、アメリカにまで講義や研究員として活躍されてこられました。今回もその一部を自然再生や活用事例として数多くの写真や幅広く交流された豊富な人脈のご紹介を通して、防災とともに環境や利用価値を同時に高める設計手法についてご説明され、その話にご講演最後まで引き込まれてしまいました。

所属：シビックアーツコンサルタント株式会社
(E-mail: pfujhima0720@yahoo.co.jp)

長 崎

第2回見学会 段ボール工場見学

CPD担当 やまもと 山本 ともひこ 奉彦
(農業・建設・長崎)



令和8年2月18日(水)、西彼杵郡時津町において、「令和7年度 長崎県支部 第2会見学会」を開催、12名が参加しました。

日本紙器株式会社は、段ボール及び紙器を主体とする包装資材の製造加工並びに販売を事業としている会社です。まず、代表取締役社長 杉本潔氏から挨拶と会社概要の説明を受け、その後、安全帽と安全ベスト、音声受信機を着用して常務取締役工場長 樋田興三氏らの案内で工場内を見学しました。

昭和36年に長崎市内で創業し、昭和42年に現在地に本社工場を移転、シート状の段ボールを製造する貼合(てんごう)工程に使用するコルゲートマシンを県内で唯一保有し、製函(せいかん)工程を経て段ボール箱を一貫生産しています。「安全・環境・品質・納期・コスト」を行動指針に掲げています。

段ボールは、ほぼ100%リサイクルが可能な包装材であり、日本での回収率は95%以上です。日本紙器(株)においては、資本関係がある大手製紙メーカーから原紙を購入し段ボール(箱)を製造、近くの運送会社が原紙の引取と製品の配送を担い、回収業者が集めた古紙と製造過程で発生する端材等を原紙の材料として運送会社が製紙メーカーへ運ぶ「完全リサイクルの企業グループ」が形成されているのが特徴です。

原紙のロールが天井近くまで高く積まれた原紙倉庫、片面段ボールと表ライナを接着する貼合工場、印刷や折り目を加工、ジョイント部を接着し箱に加工する製函工場、大量の古紙を保管するリサイクル室、商品開発を担う第一工場の順に説明を受けながら製造過程を見学しました。

最後に、試作室で段ボールを組み立てて出来上がった鉛筆立ては、事務所前で撮影していただいた写真とともに、見学会の記念品になりました。



所属：扇精光コンサルタンツ株式会社
(E-mail: t.yamamoto@ougis.co.jp)

鹿児島

第50回 CPD講演会報告

みやぞの 宮園 じょうじ 穰二
(建設・鹿児島)



1. はじめに

2026年5月9日(土)、鹿児島市勤労者交流センターで開催した第50回CPD講演会について報告する。参加者は会員34名(Web 6名)、非会員9名であった。

2. 講演1『動物とヒトにおけるコミュニケーションの生物学・神経科学』菅野 康太氏(鹿児島大学大学院人文社会科学部研究科准教授、博士(理学))

講演では、生物学におけるコミュニケーションを「送信者の信号によって受信者の行動が変化し、その結果として送信者が利益を得る相互作用」と定義し、キツネ等の実験を例に、動物実験を通じた社会性や向社会行動について説明された。また、他者への寛容性が高い動物ほど向社会行動を示し、家畜化された動物にはストレスホルモンが低い特徴がみられること、「ふれあい」と「表情」を重要なコミュニケーションシグナルとして取り上げ、幼少期の接触

経験が不安や対人関係に影響すること、さらに、人間が動物やロボットにも感情移入する「擬人化」に触れ、コミュニケーションの対象となる「他者」は今後さらに広がる可能性などを示され、示唆に富んだ講演をいただいた。

3. 講演2『AI・自動化・遠隔操作が拓く新たな建設業～多様な人材が活躍できる安全な現場の構築～』木下哲治氏(旭建設株式会社、技術士(建設))

講演では、無人化施工の定義、災害対応事例、「人手不足の日常の現場を救うインフラ」としての無人化施工の進化を説明された。現場から16km離れた本社から遠隔操作で実施した河道掘削工事では、高速通信、ICT技術などの技術を組み合わせ、既存バックホウに後付けしたシステムや3Dデータに基づく自動制御により、未経験者でも高精度な施工を可能とした。短期間で高い施工効率を達成して、女性や未経験者など多様な人材の活躍の可能性が紹介された。また、本社から100km離れた施工現場で、無人バックホウやクローラダンプ、AI全現場監視のテクノロジーを活用し、安全確保と生産性向上を同時に実現した無人化施工の説明があった。そして、国交省の宇宙建設革新プロジェクトの話をされ、興味深い講演をいただいた。

所属：株式会社日峰測地
(E-mail: joj.miyazono@gmail.com)

協賛団体会員

.....[福 岡].....	[佐 賀].....	[大 分].....
(株)エム・ケー・コンサルタント	朝日テクノ株式会社	九建設計(株)
(株)カミナガ	(株)エスジー技術コンサルタント	協同エンジニアリング(株)
(株)建設環境研究所九州支社	九州技術開発(株)	ダイエーコンサルタント(株)
(株)建設技術研究所九州支社	(株)九州構造設計	東洋技術(株)
(株)久栄総合コンサルタント	(株)コスモエンジニアリング	東洋測量設計(株)
産業開発コンサルタント(株)	新栄地研(株)	西日本コンサルタント(株)
(株)サンコンサル	(株)親和コンサルタント	(株)日建コンサルタント
ジーアンドエスエンジニアリング株式会社	精工C&C(株)	日進コンサルタント(株)
(株)CTIグランドプランニング	(株)トップコンサルタント	松本技術コンサルタント(株)
第一総合技術(株)	西日本総合コンサルタント(株)	[宮 崎].....
第一復建(株)	日本建設技術(株)	(株)アップス
大成ジオテック(株)	シマウチエンジニアリング(株)	九州工営(株)
大和コンサル(株)	[長 崎].....	(株)ケイディエム
(株)高崎総合コンサルタント	扇精光コンサルタンツ(株)	(株)国土開発コンサルタント
(株)テクノ	(株)実光測量設計	(株)白浜測量設計
西鉄シー・イー・コンサルタント(株)	大栄開発(株)	南興測量設計(株)
西日本技術開発(株)	太洋技研(株)	(株)西田技術開発コンサルタント
西日本コントラクト(株)	(有)吉川土木コンサルタント	(株)東九州コンサルタント
(株)西日本測量設計	[熊 本].....	(株)都城技建コンサルタント
日鉄鉱山コンサルタント(株)九州本社	旭測量設計(株)	[鹿児島].....
日本工営(株)福岡支店	(株)ARIAKE	(株)久永コンサルタント
日本地研(株)	(株)九州開発エンジニアリング	(株)南日本技術コンサルタンツ
富洋設計(株)九州支社	(株)熊本建設コンサルタント	(株)アジア技術コンサルタンツ
パンフィックコンサルタンツ株式会社九州本社	(株)興和測量設計	大福コンサルタント(株)
平和測量設計(株)	(株)コンサルハマダ	
(株)唯設計事務所	(株)ジョーナンテクニカル	
.....[北九州].....	(株)大進コンサルタント	
(株)永大開発コンサルタント	(株)ヒライ・コンサルタント	
(株)松尾設計	(株)水野建設コンサルタント	

次 回 の 予 告 (第149号 令和8年10月)

○2026年度 九州本部第1回CPD

編 集 後 記

九州本部では5月9日に青年技術士交流委員会主催の2025年度第技術士試験(一次及び二次)合格祝賀CPD(研鑽会)を開催しました。多様な部門の技術士が集まり、それぞれの専門性を持ち寄って社会課題をどう連携して解決していくか、熱い議論が交わされました。議論の結果発表を聞くと、技術士という資格は“個人の専門力”であると同時に、“仲間とつながること”で広がる力”でもあることを改めて実感しました。

日本技術士会に入会したものの、まだCPDや部会の活動に参加できていない方も多いと思います。最初の一步は、少し勇気があるかもしれませんが、しかし、一度参加してみると、同じ志を持つ仲間との出会いがあり、視野が広がって自分の専門性を社会にどう活かすかを考えるきっかけが得られると思います。

日本技術士会には様々な交流の場がありホームページで公開されています。ぜひ気軽に扉を叩いてみてください。あなたの一步が、九州の未来を支える技術士同士のコラボレーションをさらに強くし、社会課題の解決に向けた大きな力になります。

(倉成)

編集：広報委員

【福 岡】久保川孝俊、棚町 修一、西尾 行生
原田 正則、松田 敦、倉成 真一
【北九州】宮崎 照美 【佐 賀】合志 勉
【長 崎】清水 正明 【大 分】竹内 一博
【熊 本】沼地 英二 【宮 崎】神田 稔弘
【鹿児島】高畦 博

発 行：公益社団法人 日本技術士会九州本部
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-19-5
(博多石川ビル6階D2号室)
九州本部： ☎(092)432-4441
FAX(092)432-4443
E-mail:pekyushu@nifty.com
九州本部ホームページURL：
<http://www.pekyushu.com/>
印 刷：株式会社チューエツ